



# 2022年 柑橘類防除基準



## JAありだ

有田振興局農業水産振興課 監修  
2021年12月作成

### ●基本的防除

主な管理作業	時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 及 び 濃 度		使用基準		備 考
					みかん	かんきつ	
<p>●酸性土壌の改善 石灰の施用により土壌の酸性を矯正する。ナメクジは酸性土壌に発生が多い。</p> <p>●密植園の間伐 密植園は病害虫の巣となるので間伐を実施する。スプリンクラー防除園では、薬剤のかかりやすい樹形にする。</p> <p>●防風樹の処理 早めに行い通風、採光を良くする。または防風樹の代わりに防風ネットを設置するのもよい。</p> <p>●剪定枝の処理 剪定枝や枯枝、かいはよう病罹病枝を園外に持ち出し処分する。</p> <p>●ナメクジ・カタツムリの忌避 銅板を株元へ巻く。</p> <p>●除草の徹底 雑草が多いと害虫が集まりやすくなるのでこまめに除草を行う。</p> <p>●枯枝の処理 摘果時に見つけた枯枝は剪除する。</p> <p>●カミキリムシの捕殺 カミキリムシの幼虫・成虫を見つけたら捕殺する。</p> <p>●夏芽の処理 夏芽はチャノキイロアザミウマの発生源となる。</p> <p>●排水対策 褐色腐敗病対策として園内の通風・排水をはかり、多湿にしない。発病果実を直ちに園外に持ち出し処分する。</p> <p>●秋芽の処理 かいはよう病の越冬場所。常発園は必須。</p> <p>●果実の取扱い 果実が腐敗しないよう、収穫・選果・貯蔵・出荷の際、ていねいに果実を取り扱う。</p>	12月下旬 ～1月中旬	ミカンハダニ(越冬卵) ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(95%) 45倍 マシン油乳剤(97%) 60倍	冬期/- 12~1月/-		ミカンハダニは薬剤抵抗性の発達が著しいためマシン油乳剤は有効。カイガラムシ類多発園ではマシン油乳剤の散布は必ず行う。幹まで薬剤がかかるように丁寧に散布する。散布前後は暖かい日を選ぶ。	
	3月中下旬	ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(97%) 60~80倍	3月/-		冬季との2回散布は行わない。発芽前に散布する。ミカンハダニを対象とする場合は80倍。中晩柑類は収穫後に散布する。	
	新梢伸長期 ～開花初期	シャクトリムシ類 コアオハナムグリ・ケシキスイ類	ロディー乳剤 2,000倍	7日/4回		散布の際ミツバチへの影響に注意する。アブラムシ類発生園では対象別防除欄参照。	
	満開期 ～落弁期	黒点病 灰色かび病	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ベンコゼブ水和剤 600倍 ベルグート水和剤 2,000倍	30日/4回 90日/4回 30日/4回 90日/4回 前日/3回 前日/2回		そうか病を対象とする場合は1,000倍(かんきつは登録無し)	
	5月下旬	黒点病	エムダイファー水和剤 600倍	60日/2回 90日/2回		ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。	
	6月上旬	ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤 2,000倍	前日/3回		ヤノネカイガラムシを対象とする場合は対象別防除欄参照。散布の際はミツバチへの影響に注意する。株元にも十分散布する。ゴマダラカミキリには一斉防除が効果的。	
	6月中下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ベンコゼブ水和剤 600倍	30日/4回 90日/4回 30日/4回 90日/4回			
		ミカンハダニ	マシン油乳剤(97%) 200倍	-/-		中晩柑類ではマシン油乳剤と有機剤との混用はしない。	
	6月中下旬	ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	アドマイヤーフロアブル 3,000倍	14日/3回		株元にも十分散布する。ゴマダラカミキリには一斉防除が効果的。ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。	
		黒点病	エムダイファー水和剤 600倍	60日/2回 90日/2回		ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。	
	7月上中旬	チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	アグリメック 2,000倍	7日/3回		ゴマダラカミキリ発生時は対象別防除欄参照	
	8月上旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ベンコゼブ水和剤 600倍	30日/4回 90日/4回 30日/4回 90日/4回			
		チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル 2,000倍	21日/2回		着色期以降及び施設栽培は薬害の恐れがあるので使用しない。マシン油乳剤との混用はしない。	
	8月下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ベンコゼブ水和剤 600倍	30日/4回 90日/4回 30日/4回 90日/4回		☆収穫前日数に注意する。	
		チャノキイロアザミウマ	対象別防除(殺虫剤)欄参照			発生に応じて散布する。	
9月上旬～	ミカンハダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	前日/1回		発生初期に防除を行う。		
	アザミウマ類 アザミウマ類 アザミウマ類 アザミウマ類	対象別防除(殺虫剤)欄参照			発生に応じて散布する。		
収穫前	貯蔵病害	対象別防除(殺菌剤)欄参照			☆収穫前に必ず散布する。		

※ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZ、ベンコゼブ水和剤は同成分(マンゼブ)を含むので使用回数は合わせて4回までとする。※高温・過乾燥時、夕方での薬剤散布は薬害発生のおそれがあるのでさける。(特に乳剤・液剤)

### ●対象別防除(殺虫剤)

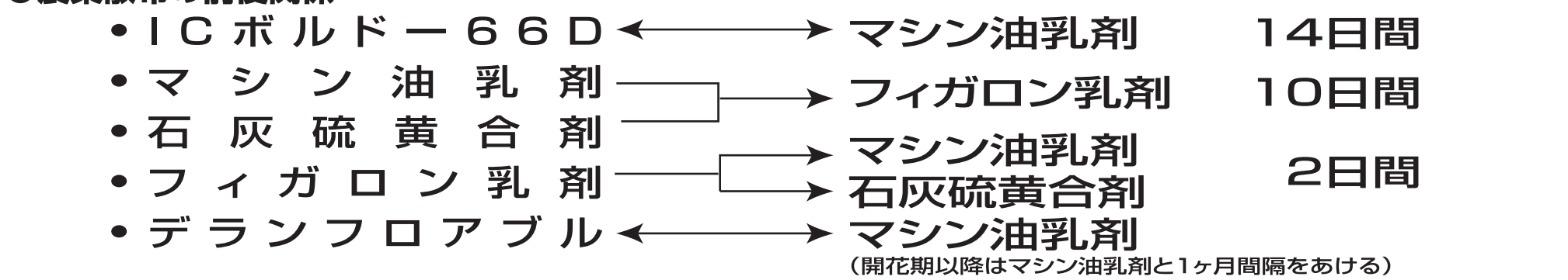
対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度		使用基準		備 考
				みかん	かんきつ	
ナメクジ類 カタツムリ類	発生時	マイキラーL 200倍	30日/3回			
		スラゴ 1~5g/m <sup>2</sup>	-/-			
		ナメクリン3 3kg/10a	30日/3回			
ハマキムシ類	発生時	エクシレルSE 5,000倍	前日/3回			
アブラムシ類 ミカンハダニ (エカキムシ)	4月~9月	モスピラン顆粒水溶剤 3,000倍	14日/3回			
アザミウマ類	5月~10月	スピノエースフロアブル 6,000倍	7日/2回			
		ディアナWDG 10,000倍	前日/2回			
チャノキイロアザミウマ	5月~10月	コルト顆粒水和剤 3,000倍	前日/3回			
チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	5月~10月	ハチハチフロアブル 2,000倍 コテツフロアブル 4,000倍	前日/2回 前日/2回		目に入らないように注意する。	
ミカンサビダニ チャノホコリダニ	5月~10月	サンマイト水和剤 3,000倍	3日/2回			
ミカンハダニ	発生時	コロマイト水和剤 2,000倍	7日/2回			
		スターマイトフロアブル 3,000倍	7日/1回			
		ダニコングフロアブル 4,000倍	前日/1回			
カイガラムシ類	5月下旬~	トランスフォームフロアブル 2,000倍	前日/3回			
		モベントフロアブル 2,000倍	7日/3回			
ヤノネカイガラムシ (若齢幼虫)	6月中下旬 ・8月中旬~	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回			
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫)	6月~8月上旬					
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫) イセリヤカイガラムシ (幼虫)	5月下旬~	アプロード水和剤 1,000倍	14日/3回	45日/3回		
コナカイガラムシ類	6月上旬	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回			
ロウムシ類	7月上旬	アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍	14日/3回			
ゴマダラカミキリ	成虫発生時 7月中下旬(株元散布)	アクセルフロアブル 2,000倍	7日/3回			
		ダントツ水溶剤 4,000倍	前日/3回			
		アクセルフロアブル 200倍	7日/3回			
		モスピラン顆粒水溶剤 400倍	14日/3回			
カメムシ類	発生時	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回			
		ロディー乳剤 2,000倍	7日/4回			

### ●除草剤

薬 剤 名	薬量(10a当)	液量(10a当)	希釈倍数	使用基準
ゾーパ	300g	300%	1,000倍	60日/1回
ブリグロックSL	1,000ml	150%	150倍	前日/5回
バスタ液剤	500ml	100%	200倍	21日/3回
ラウンドアップマックスロード	500ml	100%	200倍	7日/5回
タッチダウンIQ	500ml	100%	200倍	5日/3回

※ラウンドアップマックスロードとタッチダウンIQ・草枯SL・L・M・C・サンファーロン・グリンホエクスなどは同成分(グリホサート)を含むので使用回数は合わせて5回までとする。

### ●農業散布の前後関係



農業は注意書きをよく読んで、安全使用・危害防止に努めましょう。 農業・肥料等生産資材は内容明確で安心・安全な信頼できるJAを御利用下さい

### ●対象別防除(殺菌剤)

対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度		使用基準		備 考
				みかん	かんきつ	
貯蔵病害	収穫前	ベンレート水和剤 4,000倍	前日/4回 前日/2回			
		トップジンM水和剤 2,000倍	前日/5回			
		ベフラン液剤25 2,000倍	前日/3回 前日/2回		ベフラン液剤を石灰窒素・水和剤と併用する場合は先にベフラン液剤を溶かす必要はなく、かんきつを使用する場合はベフラン液剤を併用する場合は他所希釈後ベフラン液剤を添加する。	
かいはよう病	発芽前 新梢伸長期 自己剪定後(5月下旬頃) 梅雨期(6月下旬まで) 台風襲来前	ICボルドー66D	40倍	-/-		アピオンE1,000倍を加用。高温時の使用はさける。
			80倍			
			60倍			
			80倍			
コサイド3000 2,000倍 加用 クレフノン 200倍	生育期/-					
そうか病	発芽直後 (4月上旬)	デランフロアブル 1,000倍	30日/3回		マシン油乳剤とは開花期以降の梅雨1ヶ月間隔を開ける。6月以降の夏期高温時には薬害の恐れがあるので、6月以降の散布は控える。	
そうか病 黒点病	満開期以降					
灰色かび病	満開期~落弁期	ストロビドドライブフロアブル 2,000倍	14日/3回			
そうか病 黒点病	満開期~落弁期	ナティーボフロアブル 1,500倍	前日/3回			
かんがい用水の消毒	かん水時	ケミクロンG 100,000倍	-/-		農業用資材・農業用水浄化剤	
褐色腐敗病	発生前	ランマンフロアブル 2,000倍	前日/3回			
		レーバスフロアブル 2,000倍	前日/3回			

### ●植物成長調整剤

品 種	目 的	時 期	薬 剤 及 び 濃 度	使用基準	年総使用回数	
						みかん
温州みかん	全摘果 間引き摘果 全摘果	満開10~20日後	ターム水溶剤	500~1,000倍	1回	4回以内
		満開20~40日後		1,000~1,500倍		
		満開10~20日後		1,000~2,000倍※1		
	間引き摘果	満開20~50日後	フィガロン乳剤	1,000~2,000倍	14日/2回	4回以内 (1,000倍希釈散布は2回以内)
		(1回目) 満開50~90日後		3,000倍		
		(2回目) 満開70~110日後				
浮皮軽減	宝尻期(着色初期)とその2週間後			7日/2回		
浮皮軽減 (中生、晩生)	8月下旬~9月中旬 (着色遅延に注意)	ジベレリン協和液剤 加用 ジャスモメート液剤	1~5ppm (5,000~1,000倍) 2,000倍	45日/1回	3回以内	
かんきつ	へた落ち防止	収穫開始予定日の20~10日前	マデックEW	2,000倍~3,000倍	1回	1回
	後期落果防止	着色期~ 収穫20日前				
	花芽抑制による 樹勢の維持	収穫直後~ 収穫約1ヶ月後※2	ジベレリン協和液剤	25~50ppm (200~100倍) 2.5ppm (2,000倍)	1回	1回※3
		収穫後~3月※2				

※1 フィガロン乳剤を1,000~2,000倍で散布する場合は、エスレル10の2,000~8,000倍と混合する。

※2 温州みかんは、11月~1月(但し、収穫後)

※3 温州みかん、不知火、はるみは3回以内

※フィガロン乳剤は樹勢の低下した樹への散布は控える。 ※ターム水溶剤は落葉および浮皮発生の事例あり。

※ジベレリン協和液剤の浮皮軽減目的の散布は着色遅延をとまなうため出荷時期を考慮して使用する。

### ●薬剤希釈倍数表

希 釈 倍 数	40	45	60	80	100	150	200	300	400	500	600	750	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
水100% 当り薬量(ml)	2,500	2,222	1,666	1,250	1,000	666	500	333	250	200	166	133	125	100	66	50	33	25	20	16

※登録のない薬剤は絶対に使用しないこと。

※隣接地に薬剤が飛散しないように注意してください。

※この表に掲載している薬剤は、柑橘類へ使用できる農業の中から特にJAが指導している農業です。この中から使用するようにお薦めします。

※使用基準の左の数字は収穫前日数、右の数字は使用回数です。(=は未設定、Xは登録なし)

※自分が生産した農作物に、いつ、どんな農業を使用したか、いつでも誰にでも公開できるように使用する度に記帳しておきましょう。

☆農業の残液が河川等に流出しないように特に注意してください